

平成30年度発掘調査報告会

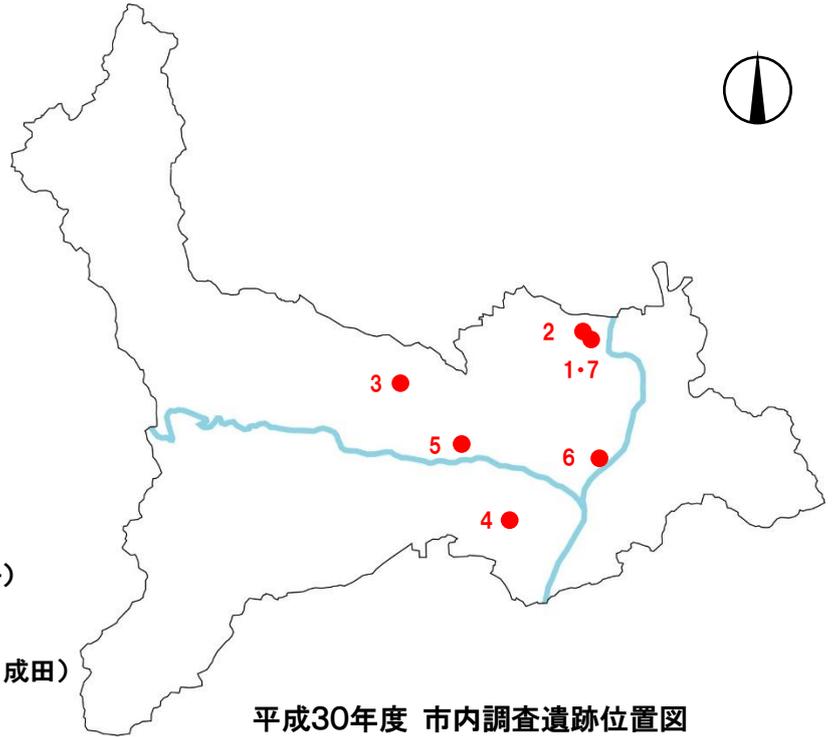
日本現代詩歌文学館講堂

平成31年1月19日(土)

北上市立埋蔵文化財センター

はじめに

北上市立埋蔵文化財センターでは平成30年度、市内の7遺跡で発掘調査を行いました。調査理由は住宅建設、宅地造成、工業団地造成などがあり、いずれも開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査です。発掘調査の成果をご覧ください、地域の歴史に思いを巡らせる機会となれば幸いです。

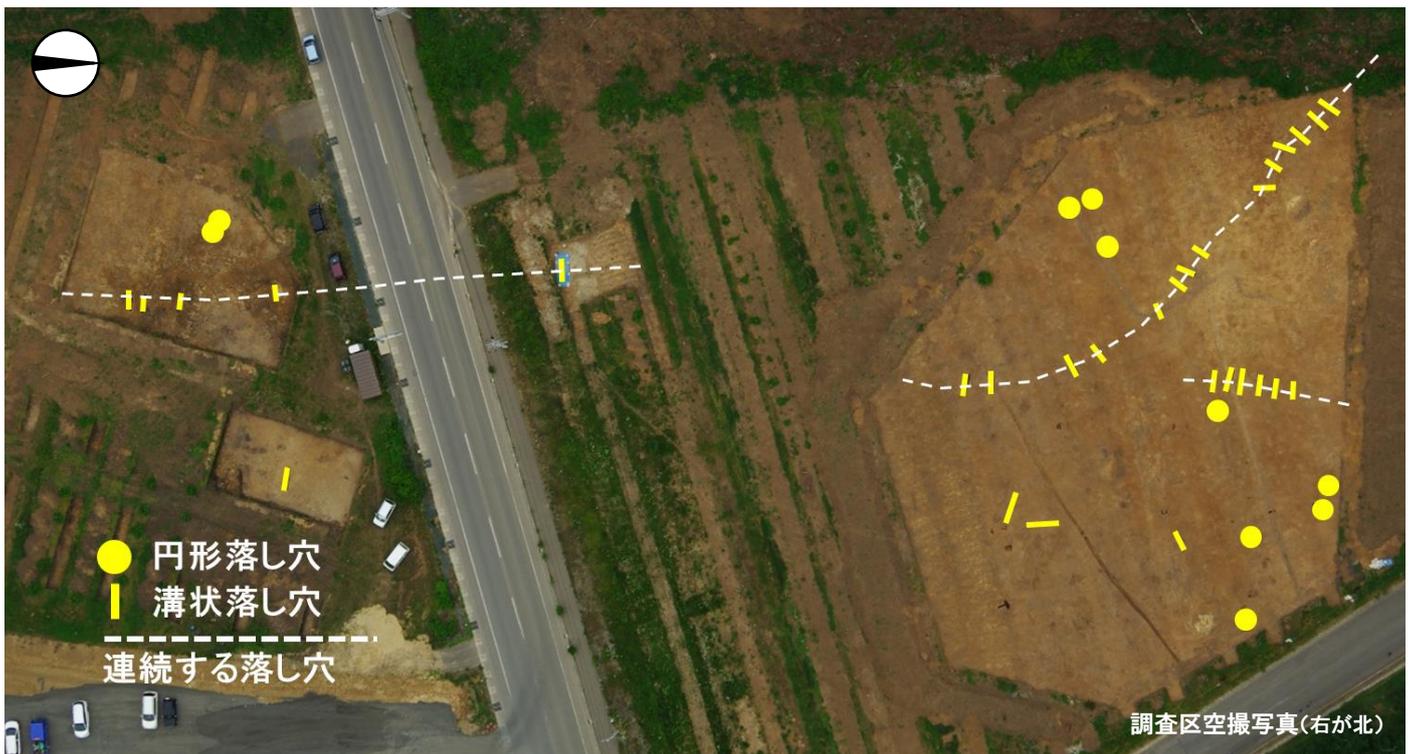


平成30年度 市内調査遺跡位置図

1. 成田岩田堂館跡(成田)
2. 成田遺跡(成田)
3. 道地遺跡(和賀町藤根)
4. 卯ノ木遺跡(下鬼柳)
5. 妻川遺跡(下江釣子)
6. 牡丹畑遺跡(里分)
7. 奥州街道跡(二子一成田)

1. 成田岩田堂館跡(成田) —平地に広がる縄文時代の落とし穴群—

調査期間 4月13日～7月25日 **調査理由** 工業団地造成 **調査概要** 今回の調査では縄文時代(詳細時期不明)の円形落とし穴10基、溝状落とし穴29基などが見つかりました。円形落とし穴の床面からは、棒を立てたと思われる穴が見つかりました。床面の穴の形態は、細い穴が2基並ぶもの、太い穴の中に細い穴が3～4基掘られるものなど様々なものがあり、罨猟に工夫を凝らしていた可能性があります。溝状落とし穴は、並び方から3本のルートがあり、いずれも獣道に沿って動物を追い落とすために掘られていたと考えられます。



● 円形落とし穴
| 溝状落とし穴
--- 連続する落とし穴

調査区空撮写真(右が北)



成田岩田堂館跡からみつけた落とし穴



4基が並ぶ溝状落とし穴(南西から)

2. 成田遺跡 (成田) —飯豊川南岸の縄文狩り場—

調査期間 10月25日～11月6日 **調査理由** 工業団地造成 **調査概要** 成田遺跡は1990年に調査が行われており、縄文時代の竪穴住居跡や食糧貯蔵穴、落とし穴などがみつかっています。今回の調査では縄文時代(詳細時期不明)の落とし穴6基などがみつかりました。溝状落とし穴は4基が平行に並んでいました。遺跡の北東側斜面では窯壁の付着した須恵器などがみつかっており、須恵器窯が存在した可能性があります。今回の調査でも、表土から須恵器大甕の破片などが少量出土しました。

3. 道地遺跡 (和賀町藤根) —縄文時代の狩り場と弥生時代の竪穴住居跡—

調査期間 9月12日～9月17日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 道地遺跡の本格的な調査は、今回が初めてです。縄文時代(詳細時期不明)の溝状落とし穴5基、弥生時代初頭(約2,200年前)の竪穴住居跡1棟がみつかりました。弥生時代初頭の竪穴住居跡は付近ではみつかっておらず、またこの時期の方形の竪穴住居跡も市内では存在が知られていません。竪穴住居を作った人々がどこから来たのか、今後検討していく必要があります。



調査区全景(北西から)



弥生時代初頭の竪穴住居跡(西から)

4. ^{うのきいせき}卯ノ木遺跡（下鬼柳） —平安時代の集落と縄文時代の狩り場—

調査期間 ①4月16日～5月7日、②9月6日・7日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 平安時代（9世紀後半）の竪穴住居跡1棟・土坑1基、縄文時代晩期（約2,400年前）の貯蔵穴1基、縄文時代の落とし穴2基がみつかりました。大堤～下鬼柳の高台では、9世紀後半の竪穴住居跡が多数みつっています。9世紀前半より古い時期の竪穴住居跡は極めて少なく、今回発見された竪穴住居跡も新しく移り住んだ人々の住まいと考えられます。



調査区全景(西から)



平安時代の竪穴住居跡(西から)

5. ^{さいがわいせき}妻川遺跡（下江釣子） —平安時代の集落と中近世の屋敷—

調査期間 11月14日～12月15日 **調査理由** 宅地造成 **調査概要** 平安時代（9世紀後半）の竪穴住居跡8棟、中・近世と思われる土坑9基、溝跡8条、柱穴約300基がみつかりました。調査幅が狭いため柱穴群がどのような建物を構成しているかは不明ですが、隣接地で行われた過去の調査では、同様の柱穴群と共に16～18世紀の遺物がみつかり、今回みつかった柱穴約300基も同時期のものである可能性があります。本調査区の周囲は、中・近世に繰り返し建物が建てられた屋敷地であったと考えられます。



北側調査区全景(西から)



北側調査区の中～近世柱穴群(東から)



平安時代の小型竪穴住居跡(南から)

6. 牡丹畑遺跡(里分) 一奈良～平安時代の村と大型竪穴住居跡一

調査期間 5月21日～9月4日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 奈良～平安時代(8世紀後半～9世紀前半)の竪穴住居跡4棟がみつかりました。周辺では同時期の竪穴住居跡が多数みつかっており、大きな村だったことがわかっています。中でも注目されるのは、一辺8m前後の大型竪穴住居跡が2棟みつかったことです。本遺跡では最大級の住居跡であり、土器や鉄製品の出土量も豊富なことから、集落の指導的立場の人々が生活していたのかもしれません。



西側調査区全景(北から)



奈良時代の大型竪穴住居跡①(南から)



奈良時代の大型竪穴住居跡②(北西から)



同左 カマド(北東から)



大型竪穴住居跡①遺物出土状況(東から)

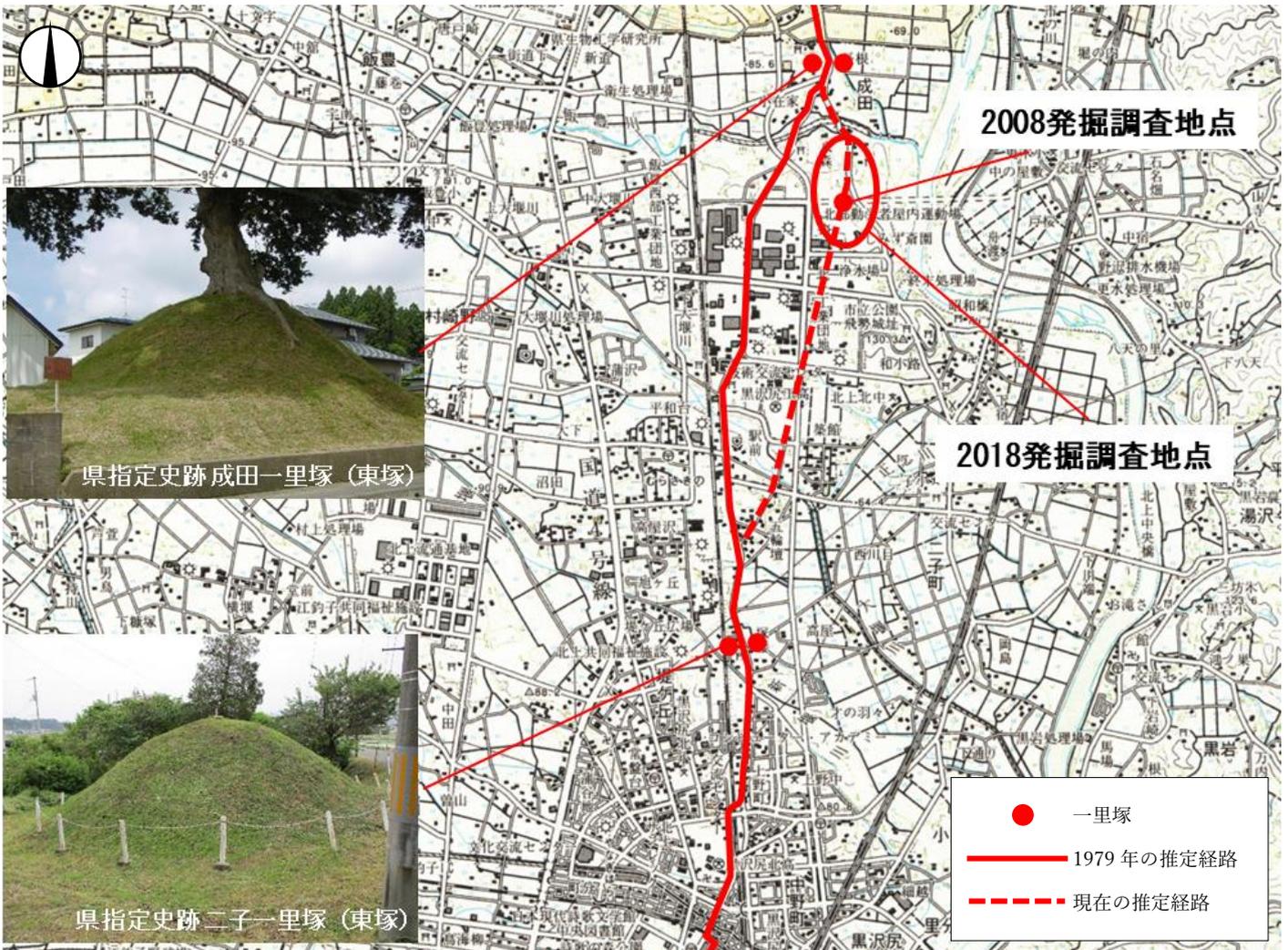


牡丹畑遺跡出土遺物

7. 奥州街道跡（二子一成田） —近世日本列島の幹線道路—

調査期間 4月13日～7月25日 **調査理由** 工業団地造成 **調査概要** 奥州街道とは徳川家康の命により作られた江戸を起点とする五街道の一つで、東京都中央区日本橋から青森県外ヶ浜町三厩まで続く、近世日本列島の幹線道路です。街道には一里（約4km）ごとに塚が築かれました。のちに現在の国道4号線となりましたが、今回の調査区間は道路の切り替えにより廃道となっていたため、舗装や開発によって破壊されず残っていました。

調査では、1. 街道両脇に松並木の抜根の痕跡が並ぶこと、2. 街道の側溝は東西溝とも3回以上の掘り直しが行われており、街道の幅は5～6m前後であること、3. 調査区南側斜面部の切通区間には、街道両脇に地盤の土を削り出した上に盛土して土手が造られていたこと、などがわかりました。街道路面は何度も整地が行われており、大量の土砂が運ばれ維持管理にかなりの労力が投入されたことが伺えます。かつては別の経路が想定されていましたが、2008年と今回の調査により、二子・成田一里塚間の経路が明らかになりました。



調査区間南奥の現況(北から)



調査区間中央の現況(北から)



松並木の抜根跡とみられる窪み(8区付近、北から)

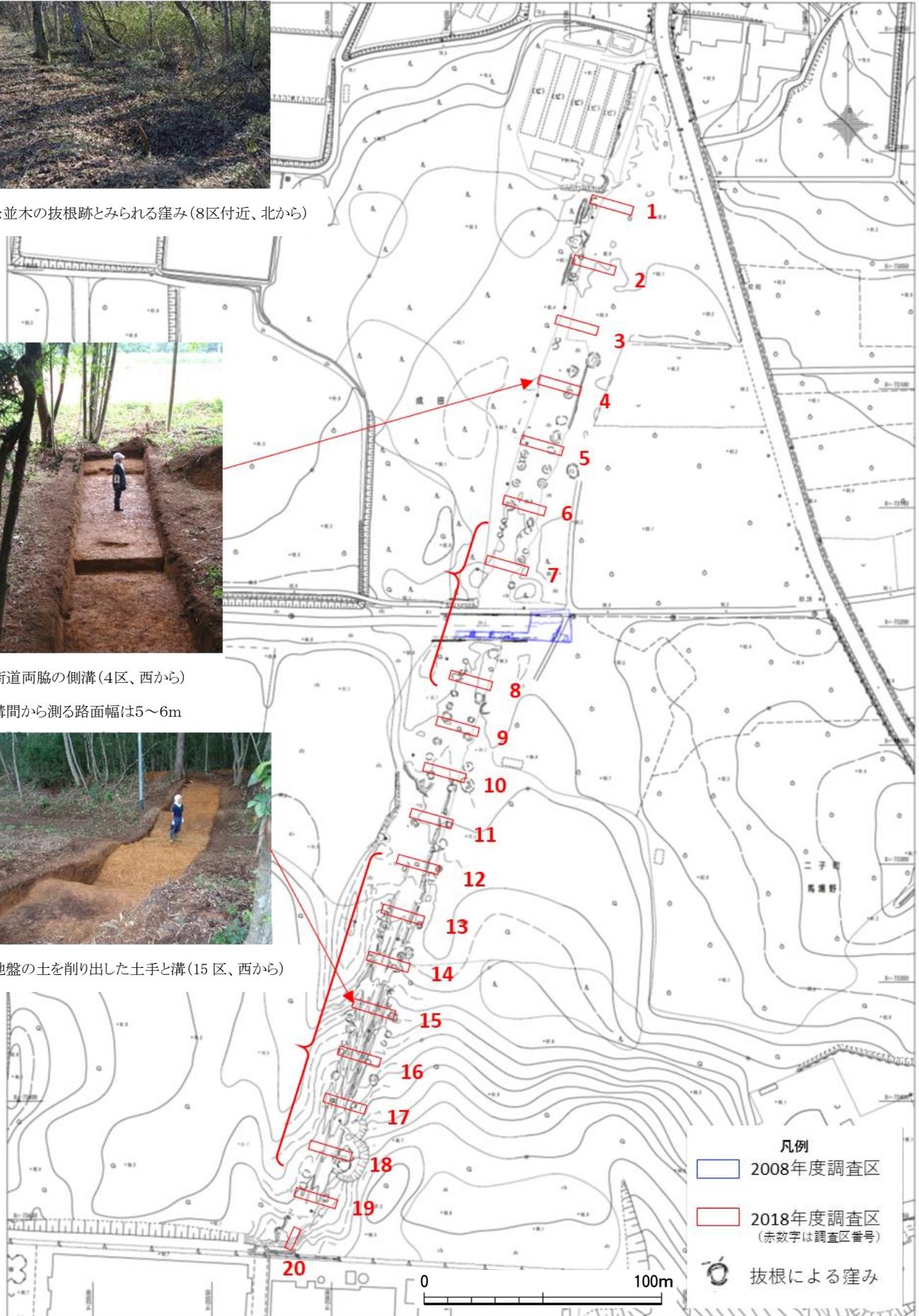


街道両脇の側溝(4区、西から)

溝間から測る路面幅は5~6m



地盤の土を削り出した土手と溝(15区、西から)



奥州街道現況測量図

北上市立埋蔵文化財センター

〒024-0051 岩手県北上市立花 14-62-2

TEL : 0197-65-0098